

戦を代時

特240
233

780



著二賢原肥土



10セン



* 0003179000 *

0003179-000

特240-233

新時代を戦ふ日本

土肥原賢二・著

日本青年外交協会出版部

2版
昭和14

ABA

特240
233



新時代を戦ふ日本

土肥原賢二著

日本青年外交協會出版部發行



日本經濟學會出版部發行



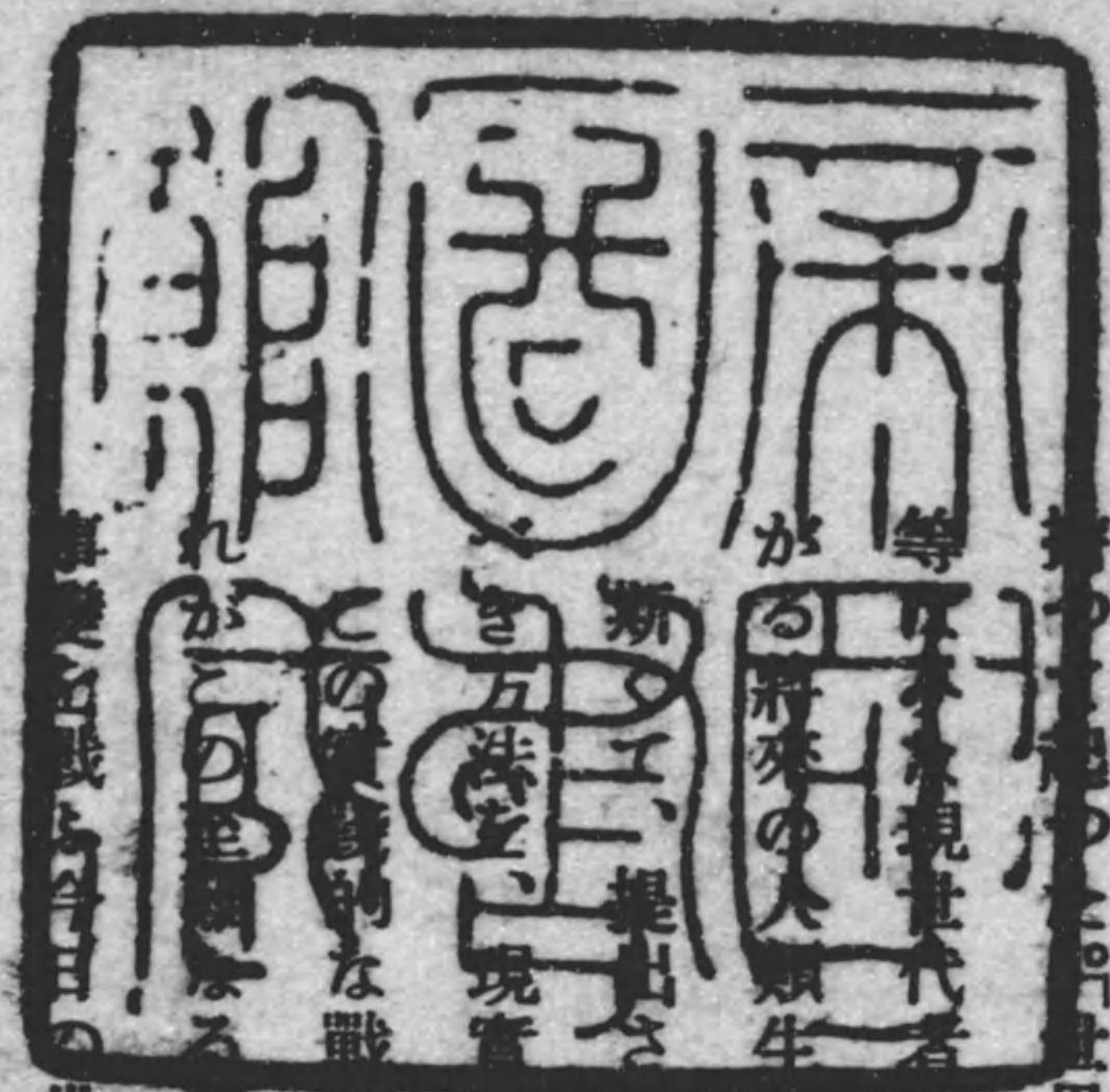
新時代叢書



新時代叢書二卷

『新時代叢書』刊行の辭

われわれは新しい時代を戦ひとりつゝあり、新しい時代を出現さすべき全人類の課題を
持つてゐる。「世界改造」と云ひ「東亞協同體」と云ひ「東亞の新秩序」と云ふも、これ
等は、現世代者としてのわれわれの生活の充實を求むる聲であり、われわれの運命と緊
がる將來の人類生活に如何なる進歩的土壤を形成するか、と云ふ建設的提案である。



斯くて、提出されたる問題の解決のためには、自らの周圍を正確に見究め、之に對處す
べき方法を、現實の具體的な情勢と時間と場所に於て検討しなければならぬ。
この具體的な戦ひは容易なる饒舌ではあり得ても、至難なる行動である。だが、われわ
れが、この困難なる行動をいたすらに回避するならば、祖國の榮譽と民族の誇りを持ち、今
世代者としての責任と使命を果し得ないであらう。

然るに現在既に、問題の困難さに僻易して、切實なる現實の課題を抽象の世界にひきづ
り込まうとする傾向が現はれてきてゐる。この一連の衣裳學的客觀主義及び觀念的知性主



義は、會つては、ソ聯を検討、克服する努力を拂はずして、これを嘲笑し、革新のドイツ及びイタリーを理解する代りに、デマゴークによつて眞實を葬り去れる怠情を示した。更に悪いことは、この怠情、嘲笑が「純粹性」の味方であるかの如く粧ふ彼等の欺瞞的態度である。この魔術のために、多くの人々、殊に智識層はひきずり廻されてきてゐる。新しい時代は一夜にして出来るものではなく、つねに永い苦難の時を経過しなければならぬ。それは歴史の事實である。然るに、この苦難の間隙に乗じて、今や、われわれの周圍には、かゝる怠情者、魔術師、歴史の事實に對する抹殺者が彷徨してゐる。われわれは彼等の影響から國民を切斷し、解放し、國民に眞の自覺と自信を求めなければならぬ。

日本青年外交協會出版部は、斯る切實なる要求に應じて、この「新時代叢書」を刊行するものである。本叢書をして新時代建設の一礎石の役割を果さしめるために、讀者及び一般の隔意なき忠言と支援を希望する。

昭和十四年五月

新時代を戦ふ日本

今次事變の聖戰の意義は、單に國家が自己の生存上の問題や發展の爲にのみ戦つてゐるのではなくして、世界の正義と新秩序と新文明の爲に戦つてゐることにある。

今次事變を契機に、東亞の新秩序、東亞の協同體世界、東亞の新文化、戰爭の世界的意義等々が熾んに論議されるに至つたのはこの爲である。

従つて支那大陸に於ける戰鬪行爲に併行して、熾烈な思想革新の戦が戦はれ、新

世界観が確立され、その新思想及び新世界観の指標乃至行動の原則が規定され、その規定を中核とした新政治秩序が編成されねばならない。この明瞭な論理の發展が、今日に於ては比較的多くの識者に理解されず、觀念論の遊戲や術語の譎言に化してゐる。そして、そのことは、今日最も現實的な重大な意義を帯びてゐる理念乃至術語を、現實に對しては何等奇異しない裝飾物に終らしめるか、或は積極的な反動物に轉化せしめようとする危険をすら犯してゐる。

この危険を具體的に究明する爲に東亞協同體の問題をとりあげてみるがい。東亞協同體の理念は今次事變の血と砲煙と犠牲と死の中から吾々が得た貴重な理念である。そして、この理念は世界文明の没落に變つて「太陽は東方より」の文字通り、世界の新たな思想、新たな世界観にまで上昇せんとしてゐるものである。新文明史的意義を持つ理念である。だから吾々はこの東亞協同體の理念を新思想、新世界観にまで高めることによつて、世界の新秩序と新文明の爲に戦ふ今次事變の聖

戰の意義を完成し得るのである。

然るに、現實に提起されてゐる諸問題の實現とその動向及び現實の後に繼起されてゐる將來の諸問題の様相に對する明確なる判断と正當な見透しを持たず、戯に抽象論の木馬ごつこや砂上の理想主義たる術語の譎言に憂身を賣してゐる一部の論者は、屢氣樓を組立てることによつて、今日、吾々が否、新世界が舊思想の名の下に葬り去らんとしてゐるデモクラシーや自由主義の思想を撞頭せしめ、更に國家の土臺を揺ぶり、混乱と騷擾を求めマルクス主義を甦生せしめてゐる。そればかりか、一部のジンゴイズム論者を刺戟し、彼等の反擊的内部相剋を誘發する結果を招來してゐる。彼等は客觀的にみて、かくの如く反動的役割を果してゐる。

又、東亞協同體が未だ理念の域を脱せず、これが思想的にまで内容づけられ、世界観にまで體系づけられてゐない爲に、その間隙をついて、自己の功利主義に結びつける者がある。彼等はかくすることによつて、今次事變の聖戰の意義を蹂躪する

ばかりでなく、抗日支那政權に、吾々の偉大なる血と砲煙と犠牲と死の創造たる理念を、帝國主義の煙幕なりと宣傳せしめる好材料を提供してゐる。そして、支那大陸に於ける皇軍將士の戦闘行爲の上に障害を齎してゐるばかりでなく、國を擧げて吾々が戦つてゐる東亞の新秩序の戦に有力な障害を作つてゐる。

されば、吾々は現下の東亞協同體の理念を、現實の諸問題を解決し、將來の重大な礎石としての思想にまで發展せしめる爲に、世界觀にまで學問づける爲に戦はねばならない。現實の諸問題を解決し得ない抽象論や、括弧づきの知性論は圖書館の白蟻に喰はれてをれば好い。

今日は建設の時代である。従つて、建設に向つて人々を驅り立てない主張や、建設の戦に情熱を沸きたせせない批判や、建設に向つて武装せしめない思想は絶えず非難し、否定されねばならない。

今日、ロマン・ローランやエルネスト・ルナンやアナトール・フランスやモオラ

スや、パレスやクロードルやペギイやベルグソンやニイチエやマルクスやレーニンやウイルソンの思想が、今日の新世界の建設と新文化の創造に向つて、吾々を、否、世界人を驅り立て、情熱を沸きたせ、武装せしめることに、いかに失敗せしめやうとして起ち現はれてきてゐることか！ 古い世代の思想及びその信奉者達は、吾々が今次事變を契機に大陸で戦ひつゝある國家の權利と國民の生存と友邦の爲の正義の戦に對して、卑屈な懷疑や、頑迷な罵倒や皮肉な彌次を投げつけてゐる。そして巧言に釣られた威勢のいい攻撃が吾々に挑戦してきてゐる。イーデンの理想主義、スターリンの反侵略主義、ルーズベルトの平和親書等が、その典型的なものである。古き世代の思想の挑戦は國內的にまで浸潤してきてゐる。抽象論から構成した觀念で、國民を現實面に参加せしめないやうに欺瞞してゐる。

國內の文化主義者、知性主義者なる者の辯をみよ！ 彼等は皇軍將士と國民全般が大陸の戦闘と銃後の戦から把握した貴重な協同體の理念を、現實の諸問題及び

將來に繼起する諸問題を解決する思想にまで、世界觀にまで學問づけ、體系づけることを戦時下の文化主義者の義務として客觀的に要求されてゐるにもかかはらず、これを現實ばなれのした觀念論に置き替へてゐる。

これは今日の文化主義者や知性主義者が安易な商業チャイナリズムの中で、劇しい時代の變遷に對して、辻馬車を塗り替へることから一步も出てゐないからである。

皇軍將士や國民全般が血と死で償ふ新時代の戦を戦つてゐるのに、肉體的實踐を通らない思想や文化主義が何をやるものぞ！ 國民的理念はそれが觀念的な理念から獨立して、秩序ある組織と、實踐の中に持ちこまれた時、始めてその國民的理念は國民の要求、國民の思想として現實の中に生動してくるのである。

東亞協同體、これは今日吾々の理念である。だがそれは今次事變を戦つてゐる吾々の情熱的戰闘心と一致する。偉大にして高邁なる理想であり、端的な信念であ

る。吾々が既成の世界秩序を打破して新文明史的な進歩的な新東亞を建設するには、この情熱的な戰闘心と偉大にして高邁な理想と、端的な信念を常に實踐して、今日それらには全く缺如してゐるが、一つの世界觀によつて武装してゐる舊思想と戦はねばならない。

吾々は舊思想、舊時代と戦ふ爲に、何故、彼等が今日存在し、且つ吾々に挑戦してゐるか、その根據を認識せねばならない。舊時代の人々は舊時代は幸福であり、今日は壓迫と脅威をうけてゐる不幸な時代であると考へてゐる。彼等は戦争の危機と恐怖に絶えず晒されたことがない。經濟的にも祖先の所産を繼承するだけで安定を保持することが出来た。しかし社會が生長期にあり、世界が發展期にあつた爲に、彼等は恵まれた氣儘な生活を經營することが出来た。この故に、彼等の舊時代の幸福や安易な生活に對する憧憬や懐古趣味は眞劍である。この憧憬や趣味は今次事變に關する彼等の認識を根本的に錯誤せしめてゐる。即ち、彼等は今次事變を一

時的なものとして軽視し、軽視することによつて、今次事變の後に舊時代の幸福と安易な生活が復活するものと念願し、且つそのための偉い努力をしてゐる。

今次事變の後に舊時代の再臨はない。今日の事變は、社會と世界が革新的再建を強要されてゐる解體期の戦である。この故に、今日、新時代の建設の使命を負ひ、且つその使命の爲に戦つてゐる吾々は、所謂舊世代の思想や、その思想から割り出された政治的動きや、又文化主義や知性主義の懷疑趣味に我慢してゐてはならぬ、イーデンやルーズベルトはデモクラシーの名譽の爲に戦ふ、と云つてゐる。だが、今日のデモクラシーは政治的懷疑主義の最も象徴的なものである。働くもの、國家と云ふスターリンの政治學は、眞の知的活動に値しない。山師の法螺吹きの學問である。獨伊の全體主義が根本に於て我等の「一體主義」と其思想的根底を異にしてゐるに拘らず吾々の關心となるのは、それが、新しさもの、創造を企圖してゐるからである。

舊時代、舊思想と戦つて、新しき時代、新しき思想を建設する吾々は、行動原理及びその性格と推進力は吾々の民族的なもの、國家的なもの、歴史的なものの中に求めねばならない。今日新時代の建設運動と不可分の關係に於いて、日本民族史發揚、國體明徴の運動が熾烈化せんことを、客觀的に要望されてゐるのはこの爲である。又これらのことが、今日持つ意義を果す役割は重大である。

轉換期日本に起つ吾々は、新時代の戦に起つ吾々は、吾々の先祖の歴史が、常にそのやうな場合、天皇歸一精神で戦ひ、奉還思想で體的になり、國家及び國民全體の進展に勝利し、且つその勝利感を以つて敗北者に對せず、和合對等的な家族主義を以て迎へてゐることを、三省、四省せねばならない。

吾々が戦つてゐる新時代の建設を阻止せんとする者、或はこれに方向轉換を行はしめんとする者は、常に眞理の問題を持ち出す。そして眞剣な顔付で云ふ、「何の爲

に戦ふのか？」と。そして附言する、知性は真理を探求するためにのみ尊敬せられるのであり、文化は常に真理とともに生きるものである、と。今日、日本の文化主義者や知性主義者が、おざなりの東亞協同體論の蒸返しに終始して、新時代の建設の戦の一翼として、東亞協同體の文化運動を戦ひ得ないのは、種々の條件を求め得ることは出来るであらうが、その最大なるものは、新時代の戦と真理の問題を解決してゐないからである。解決してゐないばかりか、ガストン・バリの大學に於ける講義の亞流を脱し切つてゐないのである。

「私は忌憚なく断言する——とガストン・バリは云つた。科學は真理自身のための真理以外にゴールを持つべきではない。それは真理の實際的應用から生ずる結果の善悪や幸不幸に關はるべきでない。又、如何なる理由からであれ、例へば愛國的、社會的乃至道德的理由からであれ、真理を少しでも曲げてはならない。真理を曲げるものは、精神の殿堂に於て席を占めることは許されない。」

舊時代の文化主義者や知性主義者は、ガストン・バリの如く真理を尊敬する。そして、その真理はそれが何よりも真理であることに價値を置き、その實際的結果については關心を拂はない。彼等は社會や國家や人類や生活や正義を何等顧慮せず、真理を探求し、真理を尊敬する。彼等は完成した秩序ある社會と國家に育くまれたが故に、彼等の云ふ真理の結果は不問に附され、且つ又、その事を彼等は自己の權利、學問の權威を考へて來た。

だが現在には解體と建設の中から新しい道德的領域を確立せねばならないのである。かゝる新しい世代にとつて、新しい世代の實踐から遊離した真理の存在は許されない。吾々が今日、今次事變を通じて新しい社會、新しい國家の爲に戦ひ、又、人類や生活の正義の爲に戦つてゐる時、これらの利害に反した真理を禮讃してゐる人々に對して、吾々は戦はねばならない。今日に於いては真理は常に實踐の中に存してゐるのである。

要するに、今次事變を通じて、吾々が戦ひとらんとしてゐる新時代は肉體的な實踐を通じて創造される革新思想によつて新世界觀によつて建設されねばならない。それが日本固有の民族的な建國精神を大動脈として進展されたものであらねばならないことは勿論、この戦が新眞理發見の爲の戦であることを認識せねばならない。この戦を新眞理發見の戦として戦つてこそ、今次事變の意義を全うし得るのであり、東亞協同體の理念を實際政治及び生活の上に表現してゆくことが出来、同時に世界に向つて吾々の戦の主張を堂々と主張し得るのである。

一一

今次事變の現下の段階は新時代の建設の戦の段階にまで進展してきてゐる。そして、この新時代の建設の戦は一面眞理の戦である。今事變を通じて吾々が戦つてゐる眞理は決して單一なものではない。そこでは種々の眞理が戦はれてゐる。その中

で最も重大な意味を以つてゐる眞理の戦は、國家の生存とその自然の進展を制壓することがいかに不正であり、野蠻であるかと云ふ眞理を、吾々は歴史の大清算剤としての戦争を以て、世界の無理解者や妨害者達に報らせる點にある。この故にこそ吾々は支那の生存にも理解を持つてゐるのである。その事實は帝國政府の嚴然たる宣言の中に、支那領土主權の擁護、行政的獨立の保障、領土の保障となつて示現されてゐる。他の重要な眞理の戦は歐米デモクラシー國と、モスカウのスターリニズムがいかに欺瞞を以て眞理を覆ふてきたか、眞の眞理を明徴ならしめる點にある。世界に於ける現状打破國の役割はこゝに存してゐる。

吾々が今次事變の中で戦つてゐる國家の生存とその當然の進展の權利は明瞭にしてあかねばならない。

吾が國は先に人口過剰であり、その人口を支へ得る手段はたゞ工業化あるのみであつたが、必要な原料に缺乏してゐる。この原料は外國貿易を通じて得なければな

らない。従つて、吾々は生存する爲には輸出しなければならぬ。しかるに、吾が國の輸出は歐米諸列強とその植民地の貿易障壁によつて到る所で抑制されてゐる。世界恐慌が猛烈な速度で普遍化してゐた時、世界輸出總額の僅かに三・五パーセント乃至三・八パーセントに過ぎない日本の輸出を一つの脅威として、持てる歐米デモクラシー國が次から次へと門戸を閉鎖して日本の商品を排斥した。そしてその政策が今日に至るも變更されてゐない。この風潮の先頭を切つたものは蔣介石抗日政權である。

旺盛なる生命力あるものを島國に蟄居させて置かうとする歐米デモクラシーの轉倒した政策と、潮に向つてゐる善隣國に脅威を與へようとした抗日政權の政策に對する重大な結果が今次事變である。

吾々の國家的生存とその當然の進展を妨害、或は之に抗爭する者、即ち、歐米デモクラティストや、スターリン一派や抗日蔣政權は帝國の支那大陸に於ける行動を、

單純に侵略と征服の言葉を以つて非難し、攻撃してゐる。しかし歐米のデモクラティストは、いかに、健忘症であるとしても、征服、支配、帝國主義、大海軍主義はイギリスの傳統的政策であつたことを忘れてはゐないであらう。地圖が何よりの證據だ。又、アメリカの色別された十三州の地圖そのものは領土擴大であり、そのすべてが征服であり、一八四八年にはメキシコ、九八年にはフィリッピン及びハワイを攻撃併呑した。スターリン一派の蒼白き階級主義は社會生活と國家の生命を腐蝕するイデオロギイを世界に蔓延せしめることによつて、世界を混亂と不幸にたゞさ落さんとしてゐる。抗日蔣政權及び共產黨の一派は、歐米デモクラシーやスターリンの同情と括弧つきの支援によつて、エチオピア廢帝ハイレ・セラシエやシユニツク首相やベネシユ大統領の運命を戦つてゐる。吾々は彼等が過去に於て犯した罪惡を又、現在犯してゐる罪惡を犯さうとするものではない。たゞ、今日吾々が戦つてゐる正當な國家の生存の戦と、偉大にして高邁な理想を以て戦つてゐる新時代の

建設の戦に對して、盜品の前で祈禱してゐる歐米の帝國主義者や、スターリン一派に吾々を非難する資格なく、又彼等の鼓舞激勵のみを以て、ハイレ・セラシエもシユシユニツクもベネシユも自國の國土たるエチオピアの、オーストリアの、チエツコスロヴァキアの獨立を保持し得なかつた事を、抗日蔣政權とその一派及び共產黨に警告をするのである。

現状維持國としての英米佛は、現在の世界の不安と危機は自分達が蒔いた結果であることを認識せずして、現状打破國の行動によつて原因づけられてゐる如くうそぶいてゐる。イギリスは自治領を加算して本國の二百十倍分の植民地を領有し、フランスは本國の二十二倍を領有してゐる。そして、今日世界政治と世界文明に何等積極的な進歩的な貢獻をしないポルトガルが本國の二十三倍、オランダが六十倍を、ベルギーが八十倍を領有してゐる。

世界領土配分の斯くの如き不平等な状態に、從來のデモクラシー思想を中心とし

た會議外交と平和的手段は、何等の合理的な改訂を加へず、逆に生存地域の少き國家の移民政策と輸出貿易に障壁を築造した。

ザエルサイユ條約にしる、ワシントン條約にしる、獨伊を犠牲にし、或は日支を犠牲にして、英米佛等の植民地飽滿國をいやが上にも飽滿たらしめたものである。

爆發的な發展力と生存の權利を持つ吾々は斯くの如き状態には到底堪へ得られない。遂に今日、吾々は實力的な解決に向つて突進したのである。

従つて、現状打破の戦として戦つてゐる今次事變を契機に、吾々が建設せねばならない新時代の建設は「持てる者」との妥協や調整から始められるものではなくて、彼等の反省を要求することから始められるものである。東亞の新事態を認識せよ、と吾々が主張するのはイーデンやルーズベルトやスターリンが皮肉る如く、帝國の支那大陸に於ける戰鬥行為の結果を承認せよ、等と云ふ皮相的なものでは無い。問題の所在はもつと本質的なところにある。

現状打破の戦を戦つてゐる吾々を目して歐米のデモクラティストやスターリンの一派は聯盟規約の違反であるとか、條約の破棄であるとか、道徳的にも法律的にも責むべき行爲であるとか、國家的犯罪である等と非難してゐる。この場合に於ても、彼等は問題を處理するに既成條約や、既成の道徳的側面のみを論ずることによつて重大過誤を犯してゐる。よし條約がいかに正當で尊嚴であるとしても背後の情勢がこれに背馳すると認められる時には、條約の尊嚴や道徳的根據等は破棄さるべき運命にある。「世界平和の機構は世界のため、時代のため、人類のためのものである限り、それは世界的生存の現實のために計畫されねばならない。」と云ふ根本的眞理は常に念頭に入れておかねばならない。この眞理さへ把握してをれば吾々に對して不合理な非難を浴びせてゐる「現状維持」派は羞恥を感じるであらう。

吾々は自國の生存の權利の爲に戦つてゐる。だから支那の生存の主張や戦に關

しては深い理解と同情を持つてゐる。そればかりでなく、吾々は積極的な善意の支援をすら惜しまない。この理念、この態度を表現したものが東亞協同體の言葉である。従來、國家の生存と領土保全を戦つてきた支那は、その意味に於いて、客觀的には現状打破國の急先鋒であつた。だが、抗日支那は、十九世紀の末葉以來東亞を植民地にするまでに侵略し、支那を半植民地状態に束縛してきた歐米のデモクラシーの帝國主義政策や、支那に危険な害毒を流したボルシェヴィズムに反對する戦の中に、自國の解放と生存の眞の戦があることを自覺しなかつた。しかも、新時代の潮流はデモクラシーの不正や、ボルシェヴィキの陰謀を衝いてゆく現状打破國を中心に展開し、進展してゐることを認識しなかつた。そして、戦争への道へ驅り立てるモスカウの陰謀や、ロンドンの愚劣な試みの犠牲者となり、國家の生存と領土の保全の本然的な戦の所在を忘れてゐる。

吾々は支那の國家の生存と領土の保全の本然的な戦が、その植民地的状態から

の解放にあることを正當に理解してゐる。この故にこそ吾々は今次事變處理要諦として、何よりも資本主義國が誘惑に陥入り易い帝國主義政策の排撃を宣言し、支那の主權、政治的獨立及び領土の尊重及び經濟的獨占を目的としなことを嚴肅に言明したのである。又、今日支那の建國イデオロギーとなつてゐる三民主義に對しても、この内容を抗日の聖典の如く書き變へざる限り、充分なる期待を吾々は持つものである。國民黨に對してもそれが正統派的なものであり、従つて、支那の本然の戰を戰はんとするなら、吾々は國民黨滅黨でなくして國民黨護黨である。

支那は、吾々が未曾有の規模の下に戰つてゐる今次事變の勝利の今日に於いて尙且つ、亡國的条件を強要しない帝國の偉大にして高邁な精神と理想と善意を懷疑せず、真正に理解して、焦土抗戰を中止し、日本との善隣友好政策の上に新支那を建國し、東亞の新秩序の建設に、世界の新時代の建設に参加すべきである。

新支那の生存と領土の保全の勝利の戰の道はこの方途より他にはあり得ない。

この事實現實の問題として、今日蔣介石抗日政權及び支那共產黨のつてゐる政策の如く、日本を輕侮し、日本を敵視する政策は、結局歴史の失敗を繰返さしめ、國家の悲劇的な凋落を深刻にするにすぎない。エチオピアはイタリアが財政的に破産するであらうと慰められながら、亡國の十字架を背負つた。

支那の國家と國民に對して責任ある政治家はこの運命を豫見すべきである。

吾々の目的とするところは支那を滅し、支那人を亡國の民とするにあるのではない。彼等と相和し、彼等と共存し、彼等と共に幸福を頌ち合ふにある。吾々のこの精神とこの性格とこの實踐は附焼刃的なものでも、煙幕的なものでもない。傳統的な、民族的な、國民的なものである。この故にこそ滿洲事變の時に於ても、この協同的な精神や理念に背反する一部經濟人や政治家の行動が、國家的な國民的な名によつて指彈されてゐるのである。

支那の生存と日本の国防との間には重大な不可分關係が存在してゐる。従つて、国防の問題は單に國境線上の懸壕の中にのみあるものではなく、支那にあると言明することが出来る。何故なら、日本の生存を脅威するデモクラシーやボルシェヴィキの進攻は支那を舞臺に迫つて來るものであり、吾々の戦つてゐる現狀打破の戦ひは支那を舞臺に戦つてゐるものであるからである。今日イギリスはライン河を越えて、ウイストッラ河に國境の安全保障を求め、アメリカは大西洋を越えてフランスに國境の安全保障を求めてゐる。だが、吾々はこれより遙かに眞實性と切迫性を持つた言葉で、吾々の國境保障は支那にあり、と主張する。

今日、吾々の戦つてゐる事變が現狀打破の戦であることは屢々指摘した。現狀打破の戦である以上、デモクラシー國やソ聯は東亞に於ける彼等の既成勢力や、地位や權利の一切を吾々の前に放棄して後退するか、或はそれらを擁護するために大規模な戦争を戦ふか、二途の中一途を選択せねばならないと考へてゐる。彼等は

その二途以外に通ずる途があり、即ち、吾々の建設せんとする新秩序に参加し、新時代の創造に協力することを考へずして、後者、即ち、戦争の途に向つてゐる。これはデモクラティストや、ボルシェヴィキの一派が今日歩んでゐる世界的な道である。チェンバレンのとつた對獨包圍線や、ルーズベルトの平和親書が世界戦争の危機を刺戟してゐるのはこのためである。吾々に對してもハリファックスとリトヴィノフが所謂極東の對日民主主義包圍線を企圖してゐる形跡がある。揚子江問題を他で英米佛の對日共同通牒に出できたのは最近の事實である。かくて、世界は呆然とする程の龐大な軍事費と軍備計畫の中に呼吸してゐる。

されば吾々の建設せんとしてゐる東亞の新秩序としての協同體世界は、光榮ある新時代は、今後なほ赤熱の鎔爐をくぐらなければその輝きを現はさない。赤熱の鎔爐をくぐる國民的鍛鍊にたへて、最後に國家的な戦に勝利するために、今後一層精神的にも物質的にも武装されねばならない。吾々の戦ふべき目標も、進んでゆく

べき大道も決定してゐる。しかるに政治が低調にして、國民を五里霧中に置き、聖戰の意義が徹底しないで終るとするならば、日本國史の痛恨の記録これより深刻なるものは永遠にないであらう。

單に國家の生存を戦つてゐるばかりでなく、新文化の創造、新時代の建設を自己の任務と信じてゐる吾々は、常に青年的理想、青年的な氣高い精神、青年的野心、青年的逞ましい情熱、青年的な大膽な計畫、そして青年的な決斷と行動の悲壯美を昂揚せねばならない。

世界の混亂と轉換の中にあつて新時代と新文明の建設の役割を果してゐる現状打破の日本は、國內に於ても、その最高目的の一つは青年の幸福を保障し、青年を束縛してゐる一切の絆を断ち切らねばならない。若い日本は青年の判斷に最高の評價を拂はねばならない。かくてこそ若い日本は眞に若い日本となり、その爆發的な強靱な發展力を以て今次事變を戦ひ抜いてゆくことが出来るのである。

今事變を戦ひ抜いてゆかねばならない吾々は、常に次の言葉を理解しておかねばならない。

「東洋は吾々の眞理で支配するか？ それとも吾々東洋人は歐米デモクラシーやソ聯のボルシェヴィキの奴隷となるか？ 吾々の理想か？ 彼等の理想か？ 吾々の新文化か？ 彼等の舊文化か？ 吾々の新時代か？ 彼等の舊時代か？ 血の決意のみがこの解決に勝利する！」

今日の支那の民衆は平和を熾烈に欲求してゐる。平和を欲求し、平和を建設せんとする點に於いては、吾々は人後に落ちない。だが、平和とは何ぞ？ 歐米帝國主義の不斷の經濟的侵略と政治的脅威の前に、吾々が武装せずして、奴隷になることであるか？ ボルシェヴィキのふりまく國內各層間の不安と確執の前に戦慄してゐることであるか？

東亞の平和の維持は日支兩國がその確執を止め、兩國共通の脅威となつてゐる歐米帝國主義とボルシェヴィキの東亞の吾々の生存圏域を蹂躪してゐる侵略に一致團結して、抗爭することにある。

支那の民族の自由、國家の獨立の戰は、この戰の中で戰はれてこそ始めて勝利するのである。

ここに吾々が今日提唱し、實踐してゐる東亞協同體の政治的意義の重大性がある。

日支兩國が政治的協同體に結ばねばならないことは、今日の世界狀況から判斷して、緊迫した問題である。好むと好まざるとにかかはらず、客觀的必然性を持つて、それは迫つてきてゐる。これは世界戰の危機下にある日本の國境保障のラインが支那大陸にあり、支那の民族の自由と國家の獨立の戰、即ち、支那民族解放の問題が一層切迫してきてゐるからである。

日支兩國が政治協同體を持つことは不可能であり、ユートピアであるか？

今日日支兩國間に確執があり、事變が戰はれてゐると云ふことは、政治協同體獨立の爲の主要の所在を示すものであつて、政治協同體の不可能を證明するものではない。日支兩國間の政治協同體の主要な困難は兩國が共同の政策を見出す困難ではなく利害共通の根據、殊に行動に對する共通の綱領を見出すことの困難であつた。

だが、この問題は今日解決されてゐる。それは日本の國家的生存と支那の民族革命の相對立した利害關係である。この相對立した利害關係は、東亞の新時代を、吾々が帝國主義政策に抗爭することによつて建設せんとしてゐる努力の事實によつて、支那の民族革命とは共通の利害となつてゐる。そして、このことは日支兩國の行動に共通の綱領を見出し、共同の政策を見出さしめる段階にきてゐることを示してゐる。

政治家及び政治に參與する者の政治的叡智はこの點にその閃きを示さねばならぬ

い。吾々が今日支那の三民主義の本源的なもの、正統派國民黨に理解を持つのは、この故である。

政治家及び政治に參與してゐる者が、吾々の戦つてゐる新時代の流がこの方向にあることを明察せず、おでん屋や焼鳥屋の營業許可に首をつつこんでゐるが如き状態であつては、日本の大道も、東亞の新時代も建設されない。

東亞は今、無限の意義を有する偉大なる轉換をとげつつある。

戦争から平和へ！ 新しい時代へ！ 明るい未来へ！

日支兩國が言葉の完全な意味で、政治協同體に結ばれるならば、兩國を豊にする經濟協同體の關係も急速に展開して行くであらう。何故なら、そこには十分な生活手段を萬人に供給するに足る領土と自然の富とが横はつてゐるから。

東亞の文化協同體は日支兩國の政治及び經濟協同體の戦とその成果を母胎として形成され、新時代の文化を創造するであらう。そして、そこに始めて日支の運命

協同體も具體的に展開して行く。勿論、政治、經濟、文化、運命それぞれの協同體が段階的に來るものではない。それらは相關關係の中にあり、相關關係の中に計畫され、統合され、且つ戦はれねばならない。問題になるのは世界の現實の環境と吾々が創り出してゐる主體的條件の中に於て、より第一義的意味を持つものは何か、と云ふ問題である。今日に於いては政治的協同體である。

だが、日支兩國がこの方向にすすむ爲には、今日の東亞協同體の理念運動を戦ひ、これを思想運動にまで進展せしめてゆくことが、刻下の急務である。

『一體主義』聖戰遂行の理念

(本稿は土原中將閣下が東京日日新聞記者に
に語りたるものを記録したるものである。)

皇道の眞精神

一切の對立意義を否定

32

あの尤大な支那大陸に戦雲は立ちこめ、皇軍將兵は寸刻と雖もたゆむことなく、言語に絶する前進を續けてゐる。この將兵の苦しみ銃後の悲壯な護りを透して、日本帝國が全運命かけての靖亞の大業が進んでゐるわけである。とはいへ、この大業を完成するためにはなほ長期にわたつて聖戰を續けて行かねばならず、そのために日本全體のためまざる努力が必要であることは今更喋々するまでもないことであ

33

る。従つて日本の舉國一致の體制は益々強化され、すべての機能の活動を一層效果的に、支那事變にかけた日本の大義を益々偉大ならしめねばならない。かうしたことを完行するには日本本來の皇道主義、その核心にあるところの一體主義について國民全般が深く思ひをいたし、それを發展せしめ、それを具現せしめる必要を切々として感ずるのである。一體、日本の主義、主張を社會的立場から見ても、また個人的立場から見ても、まち／＼な點が多いやうに思ふ。東亞協同體といふことでも、その意義さへ區々であるやうにさへ見える。これは要するに根本觀念が確立してゐないからではないかと私は思ふ。ところで日本の主義主張なるものは、全體主義でもなく、また民主主義でもなく、自由主義でもない。同時に勿論共產主義ではない。われ／＼は皇道を遵奉するものである、これを強ひて形づけるとすれば、私には「一體主義」であるといひ度い。

この一體主義とは、どんなものか。これを先づ理解することが必要であると思

ふ。特に今日の重大時局に際して、その必要を痛切に感ずる。さて皇道の根本的觀念を見るに、この道は宇宙の大真理に通じて来た唯一、無二の道であるといふことである。とはいへ、皇道は日本にあるもので、日本のことのみならず、思はれて来たが、その貫く精神は全く宇宙に擴がる大真理であり、決して一國家や一民族に限定さるゝが如き小さい對立的なものではない。つまり一切が渾然一體となつて、發動し、結ばれて行くといふのであらう。私は一體主義の名で呼ぶのは、この偉大なる皇道が日本のみのものゝ如く見られる點を考慮してのことであり、世界性を持つ所以を考へるからである。

前にいつたやうに、一體主義は宇宙の大道であり、大真理であつて、獨伊の全體主義の意味ではないのである。どこが違ふかといふと全體主義はどこまでも國家の優越をまづ前提として、國家の國民に對する優越を前提として、國民は總てを國家に捧げることが第一義である。國民の幸福といふものは第二義であるといふ形式に

なつてゐる。これでは國民と國家といふものが對立してゐる。どこまでも對立觀念から起つた一つの主義主張である。然るにわれわれのいふ一體主義は根本的に對立を否定してゐる。對立觀念は天理に抗し大真理に通ずるところの大道ではない。これは的外れの道であるといふ考へから一體主義と根本を異にする譯である。この一體主義は皇道の眞精神であり皇道はわが國體そのものから生れてゐる、といふよりは、國體そのものが皇道であるから國體を正しく觀察するといふことから始めねばならぬと思ふ。換言すれば國體明徴からはじめねばならぬのだ。國體といふものは天皇の御本質といふことになる。その御本質は固より三大神勅によつて明かなやうに天皇は神ながらの御躬で祭事を行されて上御一人、現人神にあらせられる。神聖にして冒すべからざる御位にあらせられる。かるが故に、陛下は常に神として無限の御慈みを國民の上に垂れさせ給ふ。こゝに國民が一體となつて、また神として崇め、絶對の尊敬を捧げる。こゝに君民一體が成り立つ所以では



ないだらうか。それに日本の國民は彼の大化の改新、明治の御維新の如く奉還的精神に一貫してゐるのも、その根底がこゝにあるのであらう。これが國體として上下が一つの體、即ち一體につままれてゐるのである。ところが、全體主義は平面的なもので、われ／＼のいふところの一體主義は立體的である。それは上は下を視、下は上を見上げて、視るものを同じうし、下と上と向き合つて離れざるところの根底がある。これを個人にしていへば、物心一如といふ譯で對立しない。飽くまでも一つである。心を肉體と對立させないところが修養の極致であり、それによつて人格が完成される。日夜修養してゐる者は精神的に生きるのみでなく、肉體的にのみ活きるのではなく、物心一如の境地に即して生きるといふところに、生命が存するといふことを、われ／＼は信ずるもので、この人格の極致は一體を基礎としたところに初めて發揮される。

家族について考へるに、家族を構成する各人の生命があり、一家族といふ生命、

即ち一體となつた生命がある。その生命を成立し、發展せしめるために、父は父たり、母は母たり、兄弟は兄弟と各々特色を發揮し、その總てを捧げて最善を盡すといふところに家族一體が成り立つので、決して父の權利、子の義務といふ風に權利義務で對立して意義づけるといふやうな對立關係を利害で縛つて、打算的に／＼につけるものでなく、神秘的に渾然一體に結びつけられるところに家族の力がある。この家族なるもの、生命と同様に、また部落であれば部落構成色の生命あり、或いは部落全體の生命がある。その生命を成立發展せしめんがために個々の各人の存在がある。各家族が各々特色を發揮すれば、部落を成生發展せしめ、部落をして不可分、一體となり、優越も劣等もない渾然一體、平等の完全な力を生ずる。ところで、これを擴大して行けば、郡となり、縣となりまた民族となり、國家となるが民族には民族の生命があり、國家には國家の生命がある。國家には國家の機關がありその中に含まれてゐるところの機關があつて、各々の職分と特色を發揮しながら、國家

的生命を盛ならしめるため滅私奉公を致し、最善を盡して、その生命を盛ならしめる。これが結局、各個の存在、團體といはず、個人といはず、これが本當の獨立であり、自由であり、解放であると私は思ふ。

新世界創造の道

小我私利の現状を一擲

前述の一體主義について、假定を會社にとつて見るに資本と經營と勞働と、この三つの要素を對立して考へる。かるがゆゑに競争が起り、闘争が生ずる。かうした考へ方では會社が發達するものではない。會社には會社の生命がありその會社の生命を盛んならしめるべく各々その三つのものが互に協力、同心して、その特色を發揮しながら最善を盡すといふところに調和が出来て、會社の生命が盛んになる。か

く調和あり、一體化せる状態において勞働者も幸福に、資本家も利益を享け得られ、經營者も成功する。

會社そのものが、社會的に、國家的に民族的に存在すべきもので、その存在が一つの役割を果すのでも、民族、國家の一體の中の部分をなしてゐる。従つて民族なり國家なりの成生發展によつて會社の存在價値は發揮され、そこに一體的なものがあると私は思ふ。この一體といふ所に個人も眞の完全な力が生れて来る。これが宇宙の大眞理に通ずる自然の法則であり、生命そのものを眞に意識すれば自らそこに大眞理に通ずる道が拓ける。ここへ到るためには自我に對する執着をすつかり取り去つた無我大悟の境地に達せねばならない。この大悟の境地から出發しなければ眞の一體の實現は困難である。ことに今日の全日本の運命を賭しての東亞更生の大業達成に、かゝる境地こそ絶對必要であらう。そこには個人主義は絶對的に否定される。今日世界禍亂の因子も、個人主義の邪惡な發展にある。今日の現状維持國家

なるものは、自己の利益のみを考へて、他のものゝ存在を否定するものだ。つまり現状のまゝであることが利益だといふ小乗的の觀念の城塞に閉ぢこもつてゐるのであり、たゞ自己の利益といふ一點からのみ主張してゐるのである。日本内部を見て、日本全體の成生發展のために何が必要であり、どうして行かねばならぬかは、自ら分明で、一體となつて支那事變といふ興亞の聖戰に慕進せねばならぬのである。これがために小我、私利は一擲、國民は渾然一體となつてをらねばならぬ。局面の推移に應じて、それに適應するやうに一體となつて進まねばならない。然るに日本にも現状維持を主張するものがあり、區々たる流れもある。これは現状維持國家の世界におけると同様に、自己の利益といふ立場から物をいひ、知らずくの間、自我に立つてゐると私は思ふ。

ともあれ、皇道は個人主義を否定してゐるのであり、そこに日本古來の特色がある。觀念的な出發點が日本と西洋は根本的に違ふ。その出發點が違へば、如何なる

ものも行けば往くほど距離が離れてしまふ。これは日本と西洋との問題のみではなく、東洋道德の名で呼ばれる如く、考へ方に比較的近い距離にある支那と日本との間にも考へられることである。こゝが餘程考へねばならぬところであつて、その根本からまづハッキリして進んで行かねばならぬ。それは皇道の本義を體した一體主義の實現に一切の根柢をおき、これによつて進路を決定し精進して行けば自然日本の團結は非常に固くなり國家國民の進展といふものが向上の一途を辿つて行けると思ふ。

ところで、この日本帝國の一體主義といふものは單に日本だけに限られたところの思想ではなく宇宙の眞理に一貫して不變なものである。而して、この一體主義には對立はなく、闘争もない、眞に世界に擴むべき性質をもつてゐる偉大なものなのである。この一體主義の發展として、まづ我々は東亞の生命を考へねばならぬ。黄色人種は黄色人種で、黒色人種は黒色人種で、それぞれ同じ境涯、同じ特色をもつてゐる。

る。その境涯、特色を同じうするものが一つの團結、一つのグループ毎に一つの生命があるので、單に自分の民族のみでなく、黄色人種なり、黒色人種なり、その各々の生命を盛んならしめ、その全體が各特色を發揮することを自他共に許して、各々共通するところのものは、相携へて各々共通するところの唯一の生命を盛んならしめる途をとることによつて初めて團結が出来、一體となることが出来るわけで、それが協同體であり、本當の新秩序への道である。かういふ理論は日本の國體に示されてゐる。日本の國體をやかましい議論を抜きにして解りやすいへば、一個の身體にたとへられる。然して 天皇の御本質は「生命」にたとへられると思ふ。生命は各機關の細胞の隅々に、ことごとく行き亘つて充實してゐる。各機關は生命を中心にして各々その特色を發揮しながら最善を盡してゐる。最善をつくしてゐるところに健康があつて、わが生命は發展し、成生して行くわけだ。これがうまく行かぬと病氣が生ずる。病氣が人體の一部に生ずるといろく方法を講じつゝ、他の部分の生命を病

氣の部分に補給し、その部分を復舊せしめねばならぬし、自然にさうなるやうに人體の各機關は神秘的に成立つてゐる。生命が行き亘らなかつたり、部分的に機關の故障が生ずると、他の部分の自然的援助が起り、又さうならないと他の部分にも影響し、その對應がうまく行かぬと故障は大となり、全體は弱つて行く。この身體といふ神秘的なものは宇宙の縮圖だと思ふ。生命は神の分身である。物心が一如となつて、はじめて惟神とならう。甚だ畏れ多いことであるが、歴代 天皇は神とされるところの道を行ぜられ現人神とならせられることは結局大眞理に徹せられ、それを國家の政事により行はせられる。これ日本が萬邦無比の國體として建つてゐる所以である。日本國民は、この所以を體して行けば、大眞理に到達することが出来る。自己のことは何事も忘れてしまひ一心不亂の境地に入つてこそ、眞に一體となることが出来る。この精神をもつて東亞協同體の主張の根柢となせば東亞は平和に繁榮し、これを世界にもつて行けば世界が一體となつて行けるのである。

全體主義といふものは、この一體へ至る道程である。對立主義たる個人主義、民主主義が、だんく行き詰つて、どうにもならなくなり、しかもその牙城を何とかして守らうとして、戦を避けようとしながらも各國が戦を求めやうな結果となつてゐるのが世界の實情であらう。この足掻きから一步脱け出したものが全體主義である。その意味において今日のわが國にも餘程の關心を持たれてゐる主義ではあるが、これも過渡期的なものであらう。もう一步躍進したものが「一體主義」である。世界の情勢は個人主義から出發して全體主義への道を辿つてゐるが、これも對立觀念から來てゐる。ところが一體主義になると自然の眞の道、宇宙の大眞理だから世界にその觀念が擴まれば將來一體主義による新世界が實現される。一體主義は人類を救済する唯一の道であらう。

『新秩序』推進の責任

日、獨、伊提携強化に専心

現下の日本の情勢を見るに、これではいけないといふ點が多々あるやうに思へる。舉國一體となつて興亞の大事業を進めつゝあるのであるから、大乘的見地に立つて一本筋に進進せねばならない。その道は一體主義に徹することによつてはじめて顯現される。むつかしく考へなくてもよい、ガツチリと一體となり、いささかの私心を去れば、日本本來の道に自ら向ひ得るのである。惟ふに日本は明治御維新以來、西洋文化を盛んに採り入れた。これは當時の事情に照して極めて當然であり、妥當であつたといへる。だが然し、西洋文化のいゝところとともに悪いものが入つて來た。

爾來七十餘年、日本の本來的なものを省みる暇もなく西洋文化滔々として、その悪いものも盛んに根を張つた。個人主義だの、自由主義だの、いろいろ雑然と入つて残つてゐるので、これが種々な形で禍をなしてゐる。

本來われ／＼は一體主義である。開闢以來、さうした物質文明を採り入れる度に入つて來たいろ／＼の思想を排し、本來の面目に盛り返すためには、これまで述べて來たわが國體、皇道、即ち一體主義に徹しなければならぬ。一體主義の徹するところ、天皇陛下と國民の關係は實に明瞭だ。一切は、陛下から御預りしてゐるものだ。自分の生命も、自分の財産もさうだ。故に自分のものでも粗末にしてはならない。一寸した怪我でも治して大いに、陛下のみそなはせられる御國に捧げるべき時期を待たねばならないといふことになる。財産についてもさうである。さういふと、それは共產主義だといふものがあるかも知れぬが、共產主義の對立的、唯物的、權利義務的なものとは根本的に違ふのであつて、陛下のみそなはせられてをられる御

國の必要に應じて何ものをも投げ出して行くといふのであり、君民一體、忠孝一如に發源するものである。そこに出發したものが日本古來の奉還的精神であり、これが發して大化の改新となり、明治御維新の大政奉還、版籍奉還となつてゐるのであると思ふ。この思想に一體主義の根底があり、無我の一體觀が國をまとめる。かうした一體主義が徹底して東亞協同體の理念に透徹することが出来る。即ちわが國體を明徴に認識し、この精神を東亞に擴大行施することが東亞協同體でふ理念に透徹することであり、東亞の新秩序を建設し、東亞の新文化を創造し、もつてその復興と永遠の平和を保障する唯一の途である。換言すれば、日本帝國といふ國家的生命の存在は、東亞の大生命を生成發育せしむるための存在なることを確實に認識し、我利的考察より蟬脱して各東亞各國の獨立と歴史と傳統と、その特性とを尊重しつゝ専ら協力主義に則りつゝ相携へて東亞大生命振作の道程を一路邁進するにある。協力主義が小兒病的平等には絶對にないのであつて、平等中の差別といふか、本來

的な差別の中にある平等といふか、かゝるものゝ存在を否定してはいけなないのであつて協同體について數學的平等感は勿論危険である。つまり日本は東亞の新秩序推進者としての責任と、主動力として必然の行動はとらねばならぬ。これは這次聖戰の意義を大成せしむる唯一の方途にして近衛聲明の眞意義、また實にこゝに存すべしと確信する。故に、先づ帝國官民をして東亞協同體てふ理念を明知せしめ、またわが對支諸政策の諸形式が、この精神に則るべきは勿論、該諸政策の各組織内に遺憾なくこの精神を躍動せしめつゝ、これが具現の一途に勇往邁進の要があると私は考へてゐる。かうした日本の考へ方を支那はわからず、蔣政權が容共抗日、排日侮日をやつて來た。これは大變な支那側の間違ひで、東亞全局をこの悲惨な状態に陥入れた。われわれは東亞が一體主義に還つて他の主義、即ち共產主義、民主主義、個人主義の侵入に對して闘はねばならない。かれ等を一體主義の下に反省させなければならぬ。しかして世界の平和を一體主義に發して樹立せねばならぬ。その大き

な礎石を、この支那事變によつて大陸に立てたのだ。こんな大きなことはない。數萬の同胞が血を流したことが大きく意義づけられる。それを總てが認識せねばならない。上も下も、指導者も、被指導者も、政府も國民も總てが強く認識してこの犠牲をより有意義ならしめるために邁進せねばならない。如何なる苦勞も堪へ忍んでかからねばならない。目前の物質的な利益を直ちに要求することは間違ひだ。かく忍び、かく進み、やがて子々孫々に至つて、この大事業が實を結ぶ。子供を思ふ親心だ。ところで、あの近衛聲明にも、この點明らかになされてゐるが、實際第一線でやつてゐることが、このコースに添つて萬全であるか、否か、蔣政權に近衛聲明非難の口實を與へるやうなことが、ありや、否や、かういつた點にも留意するといふ風に、念には念を入れて聖戰の効果を大ならしむるやう一層努めるべきであり、この點において反省すべきものありとせば反省し、推進すべきものはドシ／＼推進せねばならぬ。この大聖戰を舉國犠牲の下に行ひながら、この大聖戰の目的行動第一主

義を、いさゝかでも忘れるものがあつてはならない。所謂現状維持の人たちは、前にもいつたやうに、個人的に現實のまゝの方が幸福と感ずる我利に執着した人が多いやうだ。従來の行き懸り上、個人主義で取り入れた財産によつて幸福を勝ち得て今日まで来た人は、依然として舊態を守つた方が有利だといふ觀念を持ちやすい。これがいけない。これが個人のために國家を犠牲にしようといふ觀念で國體に反する。かれ等は局面の大變化に對應することの第一義たることを忘れてゐると考へざるを得ない。この大業を推進するために、嵐の中にある日本を發展せしめるために、政府は強力なる一體主義に徹し、一體主義の名に辱ぢざる行動をなし、どつしりと進まねばならぬ。要するに日本は對外對内ともに日本主義的な完全な一體主義——皇道の組織に基くものとなし、とくに刻下の世界的危局に處して日本が現状維持であることは間違ひであり、一體主義の發展は當然獨伊との關係を強化し、英、米、佛、ソの世界觀を修正せねばならないのだ。即ち日本は日、獨、伊の關係を強

化して、かれ等の全體主義を一體主義にまで進めてやる。これをもつて世界に呼應する方法をとらねばならない。ヒットラー、ムツソリーニ、かれ等は、大豪傑であり、大英雄であると雖も、もと／＼民主主義から立つた經歷をもつてゐるが、これに日本の一體主義といふものを盛ならしめて大いにかれ等を、より高き理想に進ましめる可能性は多い。即ち英、米、佛などの連中から比べれば全體主義の方が一體主義になりやすい點から考へられる。日本は世界をリードする前に、まづ東亞のリーダーである。東亞といふ新世界のリーダーである。しかし今日の世界現勢から見れば、同志はいつまでも獨、伊である。決して英や佛やに色目を使ふ必要はない。斷々乎として日、獨、伊の提携を強化することに傍目もふらず進むことだ。

版權
所有

昭和十四年六月十日印刷
昭和十四年六月十五日發行
昭和十四年六月二十五日再版發行

新時代を讀む日本
〔新時代叢書第四篇〕

定價 金拾錢

著者 土肥原賢二

發行者 東京市麹町區六番町三番地四
長谷川武夫

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一ノ十二
若林吉郎兵衛

發兌 日本青年外交協會出版部

東京市麹町區六番町三番地四
電話九段(33)二九八三番
振替東京八三五七三番

大日本印刷株式會社印刷

世界週刊

每週一回土曜日發行

菊一倍半判 二十頁

定價 金十錢

(送料五圓)

會員募集

次の時代を暗示する颯爽たる編輯陣!!

祖國を世界史的に前進せしめよ、それには先づ世界を知り、世界的規模に於ける日本の立場を正しくはつきりと認識せねばならぬ。「世界週刊」は刻々に變動する世界情勢の適確なるウイークリイであると同時に、併せて協會独自の主張と見通しを加へて日本の正しき進路を指示せんとする。日本の立場を正しく把握することによつて吾々は今祖國を世界的に押し進めねばならぬのだ。諸君よ! 一切の懷疑と怯懦を捨ててこの新時代のスクラムに参加せよ!

會費入會金共
一ヶ年分五圓

會員には種々の特點あり、詳細なる會員規定は御申越し次第速刻御送りします。

390
218

戰時文化叢書

新文化創造の戦士たれ!!

第一篇 丸山 政男著
蘇聯民衆と社會

第二篇 佐多 忠隆著
蘇聯國防力の基礎に就いて

第三篇 佐藤 弘著
植民地分割戦の歴史

第四篇 三木 清著
政治と文化

第五篇 加田 哲二著
米國の經濟恐慌と世界
經濟への影響

第六篇 吉岡 文六著
事變の終局と新支那の
發展方向

第七篇 金原賢之助著
歐洲經濟の危機

第八篇 蠟山 政道著
大陸發展の新標識

第九篇 河相 達夫著
事變解決の根本基調(十五編)

第十篇 原 勝著
東亞協同體と太平洋戦争(十六編)

全十篇・定價各拾錢(送料三錢)・四六判並製四十頁内外

東京市麹町區 日本青年外交協會發行 電話九段(33)二九八三番 東京 三八五三番

